

瑞穂市自治会連合会 I C T化導入について

瑞穂市自治会連合会
坂之上 尚久（本田団地自治会）
西 野 陽一（中宮自治会）

本田団地自治会 の概要について

歴史・概要

- ・昭和45年整備（岐阜県住宅供給公社）
- ・約500世帯→現在430世帯
- ・以前は5自治会＋連合会（役員100名）
- ・高齢化率が高く、役員選出が困難
- ・対応策として5自治会を統合し、1自治会に編成

課 題

役員数削減により残った役員の負担増加

- ・当初は5自治会があり、本田団地自治会連合会がまとめていた。
- ・入居当初は、一斉に入居したため同世代が多く、運動会やスポーツ大会、祭りなどのイベントも盛んであった。
- ・高齢化により、役員選出が困難になった。80歳以上をとばすと、若年者には3～4年に一度、役員が回ってくる。
- ・昨年度までは、本田団地5つの自治会と連合会であわせて役員を100人選出していた。
空き家も増えている中、約430世帯の中から100人以上の役員を選出するのは困難。
その結果、若い世代の役員の負担を減らすために自治会を一つにした。

中宮自治会の概要について

歴史・概要

- ・ 明治期から続く集落。大正時代の揖斐川大改修で現在の場所に移転(24世帯)
- ・ 30年間で70世帯→現在256世帯
- ・ 若年層が多く、行事が活発
- ・ コロナ禍で活動が停滞、再開後は負担
- ・ 班長決めで負担を理由に脱退者が発生

課題

班長業務の多さ、負担軽減が急務

- ・ 若い世代が多く、運動会やグランドゴルフ、夏祭り、防災訓練などの地域行事を積極的に実施。
- ・ コロナ禍で一度すべての行事や会合が中止になり、その後行事を再開したあとの、役員の負担が重いとの意見が出てきた。
- ・ 役員になることを理由に自治会を脱退する人が出てきた。

デジタル化に取り組んだ理由

本田団地自治会

- ・ 自治会統合後の役員負担増加の懸念
「仕事量そのものを減らすには？」

会費集金、回覧、会議案内のデジタル化

中宮自治会

- ・ 班長決めで負担重いと自治会脱退で危機感
「デジタルで負担を軽くできないか？」

総会でデジタル化検討を正規承認

- ・ 本田団地自治会ではデジタル化で負担を減らすという方向性が見えてきた。
- ・ 中宮自治会では役員の負担が重いとの意見から自治会脱退者が数名でため、今後また発生するのではないかという危機感からデジタル化を検討した。

どのような
取り組みを
してきたか？

本田団地自治会

- ・ 回覧、会議議事録のLINE配信
- ・ 紙回覧に二次元コードを添付し希望者を募集
- ・ 匿名、閲覧専用で運用
(431軒中120名が参加)

課 題

- ・ 紙+LINEの運用で二重手間
- ・ 意見などが投稿できないなどの不満

- ・ 本田団地自治会では、自治会専用アプリは使用料がかかるものが多く、無料で使用でき一番手を付けやすいという理由もありLINEによる配信を実施した。
- ・ スマホを持っていない人がいるから意味がない。自治会員が自由に意見を言うと、収拾がつかなくなる。通知音がうるさい。LINEは危険ではないか。との意見があった。
- ・ 課題としては参加者が全員ではないため、紙とLINEの運用になり自治会長の負担が増えた。また閲覧専用にしたことにより、意見がいえないのはどうかとの不満の声もでた。

どのような
取り組みを
してきたか？

中宮自治会

- ・ 会長の高齢化、多忙で新規取組が困難
- ・ 自治会の脱退増加を機にデジタル化を総会で提案

班長業務軽減の検討に着手

- ・ 役員会への出席
- ・ 世帯配布：広報、行事案内、他
- ・ 自治会費の集金：会合、訪問
- ・ 行事の準備、運営の協力

- ・ 市に相談し「CHIKUWA!」を紹介される

- ・ 総会にて次のことを提案した。
「デジタル化の検討と試行を行うこと」、「有料アプリを導入する場合は、予算を計上すること」この提案が承認され、会員に理解を得ることができた。
- ・ まずは班長業務の負担軽減の検討を始めた。

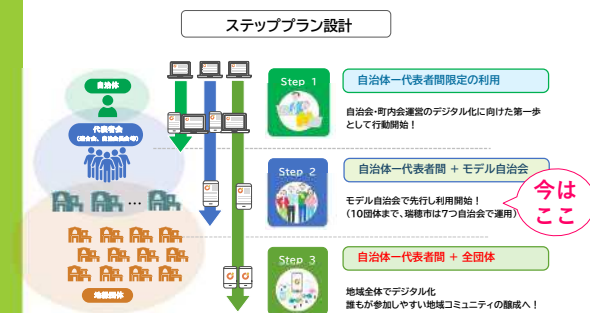
CHIKUWA! との出会い

令和7年7月12日
瑞穂市自治会連合会自治会長研修会にて
瑞穂市内の自治会に向け「CHIKUWA!」の紹介

チクワ
地区の輪=CHIKUWA!



CHIKUWA! との出会い



- ・ステップ1として、全自治会長にアプリの導入を案内し、市からの連絡事項を従来の紙ベースと合わせてデジタル配信を開始。
- ・ステップ2となる各自治会へのアプリの導入はモデル自治会を募集し、現在は7つの自治会で試験的に導入をスタートしたところです。

CHIKUWA! アプリの特徴

機能	内 容
回覧機能	回覧・広報を電子配信 アンケート、既読確認可
相談機能	安全な意見投稿・連絡（LINE不要）
資料共有	規約・議事録・地図などを閲覧、保存可
通知機能	行事中止など即時配信
管理者設定	四役・班長・会員で閲覧範囲設定



- ・多様な住民に対応する「多言語（12言語）自動翻訳機能」などがある。

CHIKUWA! の利点

本田団地自治会

- ・LINEと違い、過去の文書をいつでも閲覧可能
- ・行事後の回覧を削除し整理可能
- ・委員会単位の情報共有が容易
- ・実名で登録

- ・CHIKUWA!はLINEと違い実名で登録
（各種委員会からの文書も届くようにするため）

CHIKUWA ! の利点

中宮自治会

- ・ 回覧機能
 - ・ 回覧配布の負担が軽減見込み
 - ・ 既読確認機能で「伝わったか」が分かる
 - ・ イベント中止など即時連絡が可能
- ・ 相談グループ機能
 - ・ 住民の投稿を安全に受付（目安箱）
- ・ 資料の共有化
 - ・ 自治会規約、総会資料、事業計画、行事案内（四役向け） 会員情報、住宅地図
 - ・ 出先でも資料閲覧が可能（自治会長の利便性向上）

今後の方針 について

本田団地自治会

- ・ 連合会協力のもと本格運用の開始
- ・ 行政手続き、書類申請のオンライン化などの自治会長の負担軽減を目指す

中宮自治会

- ・ 四役→班長→全世帯へ拡大
- ・ 四役での分担体制を整備

- ・ 回覧機能
若い世帯が多いため、定着すれば班長の負担は3分の1から4分の1に減る見込み
- ・ 相談グループ機能
役員会や委員会の情報共有、目安箱（一般会員からの意見投稿）として活用を想定
- ・ 資料の共有化
紙で配っていた資料を電子化し、いつでもどこでも見られるように

今後の 活用展望

- ・ 集金機能（自治会費・出不足金）
- ・ 災害時安否確認
- ・ 行政への電子申請や相談
- ・ オンライン会議対応など

デジタルで“できること”を増やし
若い世代も参加しやすい地域づくりへ

- ・ 高齢化が進む団地、若い世帯が増える地域と環境が違っても課題は同じ
- ・ デジタル化は確実に負担を軽くする一歩

ご清聴ありがとうございました

■ ご参考 本田団地自治会の活用例



■ ご参考 本田団地自治会の活用例



本田団地自治会と中宮自治会の活用例

■ ご参考 中宮自治会の活用例



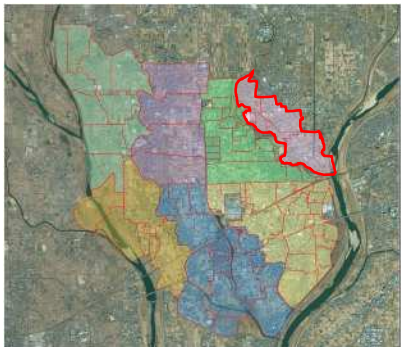
令和7年11月14日（金）令和7年度岐阜県自治連絡協議会研修大会

生津自治会連合会 生津校区見守り隊について

生津自治会連合会 会長 馬淵 一弘
すこやか委員長 長屋 正治

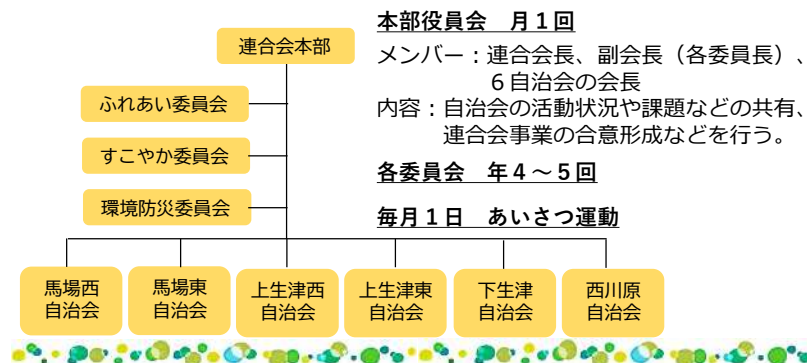


生津自治会連合会について



- 生津校区は瑞穂市の北東に位置しており、6つの自治会（馬場西、馬場東、上生津西、上生津東、下生津、西川原）が活動している。

生津自治会連合会について



- 生津自治会連合会の組織図

各委員会の活動

ふれあい委員会

- いきいきウォーク ○七夕まつり
- ふれあい体育祭
- 夏まつり

【構成員】 自治会長、社会教育推進員、子ども会、
穂北中校外生活委員、交通安全協会、
スポーツ少年団、生津小PTA、穂北中PTA、
生津小学校、穂北中学校



各委員会の活動

すこやか委員会

- 支え合いのまちづくり ○生津校区見守り隊活動
- 映画鑑賞会（R 5）

【構成員】 自治会長、民生委員・児童委員、子ども会、
穂北中校外生活委員、青年会、生津小学校



各委員会の活動

環境防災委員会

- 注意看板の設置と保守
- 通学路の安全確認等
- 地域ゴミゼロ運動
- 生津小学校区クリーン大作戦
- 避難所開設訓練

【構成員】自治会長、子ども会、老人会、消防団、生津小学校



- ・環境防災委員会で注意看板の設置をしている。
生津自治会連合会で独自に看板を作成している。

生津校区見守り隊について

生活支援体制整備事業（支え合いのまちづくり）

- ・毎月会議はやっているけど、議題に挙がっていることしか話せない雰囲気。
- ・他の活動団体や自治会が何をしているかがわからない。
- ・地域のことを自由に話せる場をつくろう！



「生津校区つながりづくり交流会」を計画

《対象者》 生津校区のために何か活動をしている人たち

自治会長、民生委員・児童委員、主任児童委員、老人会、子ども会、中学校の校外生活委員、青年会、サロンボランティア、交通安全協会、通学路見守りボランティア etc.

- ・きっかけは、瑞穂市より生活支援体制整備事業を受託したことからはじまった。
- ・生活支援体制整備事業とは、少子高齢化の時代に、地域住民同士が支え合って困りごとなどに対応していくための取組み。
- ・役員会の中で、「地域のことを自由に話せる場をつくろう」という意見が出て、つながりづくり交流会を計画し、対象者は各種団体、役員、ボランティアなどに呼びかけをした。

第1回生津校区つながりづくり交流会 (令和3年11月13日)

《テーマ》 生津の人たちの暮らしをちょっと楽しくするには？

- ・子どもと地域の大人が会う機会がないね。
- ・近所にどんな人が住んでいるかわからない…。
- ・登下校時にひとりになる子が心配。
- ・ひとり暮らしの高齢者が心配。
- ・共働き。負担が増えるのは困る。
- ・中学生が活躍できる場がない。
- ・コロナで情報伝わりにくい。スマホが使えるようになるといい。
- ・他の団体が何をしているかわからない。



- ・第1回生津校区つながりづくり交流会が、令和3年11月13日に実施。
「生津の人たちの暮らしをちょっと楽しくするには？」というテーマで話し合った結果、「子どもと地域の大人が会う機会が無い」、「登下校時にひとりになる子が心配」、「中学生が活躍できる場がない」などの意見がでた。

第1回生津校区つながりづくり交流会



- ・今ある活動を工夫すれば負担なくできるんじゃない？
- ・家の近くで子どもたちに声掛けしてもらえただけでも安心。顔見知りにもなれる！
- ・組織や地域をまたいでとか、対象を限定しない開かれた活動になれば、つながりが広がるんじゃない？
- ・中学生、声かければ動いてくれるよ！スマホ操作も得意だし！
- ・子どもと高齢者がふれあえる場所があるといいな。

- ・「家の近くで子どもたちに声掛けしてもらえただけでも安心。顔見知りにもなれる。」
「中学生、声かければ動いてくれよ！スマホ操作も得意だし！」
「子どもと高齢者がふれあえる場所があるといいな。」という意見も出た。
一部として見守り活動はあったが、連合会組織として行っていくことも大きな意味が出来ると考え取り組むことにもなった。

地域の住民同士で 世代間で 組織間で もっとつながっていこう!!

つながるためのアイデア①

多世代が顔見知りになるきっかけとしての
「子どもの登下校の見守り」

つながるためのアイデア②

中学生などの若者の参画を得て開催する
「高齢者のスマホ教室」

つながるためのアイデア③

今ある活動を工夫してつながりを広げよう

連
合
会
で
検
討

各団体等で
検討・実践

- ・そして、交流会の結果、共通して課題に挙げたことは、「つながりづくりの必要性」だった。併せて、つながりをつくるための3つの活動アイデアが出た。
- ・一つ目は、多世代が顔見知りになるきっかけとしての「子どもの登下校の見守り」。
- ・二つ目は、中学生などの若者の参画を得て開催する、「高齢者のスマホ教室」。
- ・三つめは、今ある活動を工夫して、つながりを広げる。

第2～4回 生津校区 つながりづくり 交流会

《 テーマ 》 つながるためのアイデア —第1弾—
「多世代が顔見知りになるきっかけとしての
『子どもの登下校の見守り』」
の実現に向けて

(令和4年6月12日、8月21日、10月23日開催)

①現状の共有

「生津子ども見守り隊」「生津校区防犯パトロール隊」の活動状況の報告や、生津小学校、生津小学校PTAから、登下校の状況などの話を聞き、現状を共有しました。



- ・実現に向けて、生津校区つながりづくり交流会は3回行い、話し合いを実施。まず、最初に、子どもの登下校の見守り活動の実現について、進めていくことになった。登下校の現状を知る必要があるということで、下生津地区を中心に登校時の見守り活動を行っている「生津子ども見守り隊」や青色パトロール活動を行っている「生津校区防犯パトロール隊」、生津小学校の校長先生やPTA会長さんから現状を報告してもらった。

②見守り方法の検討

通学路や下校時間などの情報を、必要な人に安全に伝える方法や、多くの人が参加しやすいように、無理なくできる活動方法について検討しました。



③協力者の募集などについて検討

多くのかたに協力していただけるよう、どのように協力を呼び掛けるかなどについて、地区ごとに通学路マップを囲んで話し合いました。



- ・次に、見守り活動の方法を検討した。活動者によって自分に合った無理のない活動方法を選択できるように検討したり、必要な人にのみ通学路や下校時間の情報が届く方法などについて協議した。

協議を経て、どのように協力者を募集するかについて、話し合いを実施。

自治会ごとに、通学路マップを見ながら、

「この交差点で見守れるとよい」

「通学路沿いの家の人たちを中心に呼びかけようか」

など、自治会長や民生委員・児童委員、子ども会の役員さん、老人会の方など、地区ごとに話し合いを実施した。

令和4年12月～

見守り活動者の募集スタート

【募集方法】

- ・自治会全戸配布
- ・生津小学校 長子配布
- ・生津小学校PTA校外生活委員を通じて子ども110番の家へ
- ・グラウンドゴルフの集まりを通じて
- ・つながりづくり交流会の参加者が個別に声かけ
- ・ふれあい・いきいきサロンで など

⇒ **77名** のかたが登録 (R5.12.5現在)



- ・令和4年12月に、これまで話し合いの経緯を添付して、募集チラシを約2、000枚配布して協力者を募集した。
- ・自治会長さんが募集チラシを一部ずつ封筒に入れて全戸に配布。
- ・生津小学校の保護者宛てに、長子配布。
- ・生津小PTAの校外生活委員さんが、子ども110番の家の方へお願いに回ってもらえた。
- ・交流会の参加者が個別に呼びかけた。例としてふれあいサロンでPR、少年団の指導者やグラウンドゴルフをやっている高齢者の方々へ声かけ。その結果、令和5年12月5日現在で、77名の方が登録。それ以外に、生津小学校の先生方、PTA役員の方とも連携して活動している。

活動者説明会 (令和5年2月15日)

1 見守り活動のポイントについて

- ①交通安全と防犯
(市民安全対策監、北方警察署より)
- ②子どもへの関わり方
(生津小学校長より)
- ③高齢者の見守りの視点
(地域包括支援センター)

2 活動グッズの貸与



- ・令和5年2月15日の活動者説明会では、安全に活動するためのポイントや、子どもたちへの関わり方について説明を受けた。
また、子どものみではなく、高齢者の見守りにも目を向けていけるように学んだ。
- ・生津校区全域で活動しているという意識づけと、啓発などの目的で、おそろいの活動グッズを作成し、配付。
緊急時の対策として、名札のケースの中に緊急連絡先を入れている。

出発式 (令和5年2月23日)

生津校区見守り隊 出発宣言



これまで、生津自治会連合会では、地域の住民同士や世代間、組織間でのつながりの必要性について、つながりづくり交流会を通じて話し合い、つながるためのアイデアの第一歩として、多世代が眼見知りになるきっかけとしての『こどもの登下校の見守り』を始めることになり、本日、私たちは、生津校区見守り隊として出発式を迎えることができました。

私たちは、日常生活の一部を登下校の時間や通学路に合わせて、自分にできる範囲で、無理をせず、無理をさせない活動に心がけます。

私たちは、見守り活動している姿を地域の多くの人に見てもらい、子どもたちに限らず、地域の人にも積極的にあいさつや声かけをしていきます。

最初の一步は小さくとも、少しずつ活動の輪が広がり、既に始まっている高齢化社会における高齢者の見守りにつながることを信じて、本日、生津校区見守り隊は出発いたします。

令和5年2月23日

生津自治会連合会
環境防災委員長 出井 武史

- ・令和5年2月23日の出発式では、北方警察署 署長、生津小学校 校長、生津小学校PTA会長などの参加のもと、おそろいの活動グッズを身に付けて、出発宣言を実施。
- ・出発宣言の内容は以下のとおり。
 - 日常生活の一部を登下校の時間や通学路に合わせて、自分にできる範囲で、無理をせず、無理をさせない活動に心がけます。
 - 見守り活動をしている姿を地域の多くの人に見てもらい、子どもたちに限らず、地域の人にも積極的にあいさつや声かけをしていきます。
 - 最初の一步は小さくとも、少しずつ活動の輪が広がり、高齢化社会における高齢者の見守りにつながることを信じて出発します。

生津校区見守り隊 情報交換会

(令和5年6月4日、9月24日)

【意見より】

- ・ベストを着て活動していることで、自分も見守られていると感じる。
- ・最近、子どもの事故が起きていない。不審者情報のメールが届かない。

⇒ **見守り活動の成果!!**

- ・子どもたちが積極的に話しかけてくる。人との交わりを求めているのでは？

⇒ **高齢者と子どもたちが交流できる行事**ができるといい

- ・活動者への情報提供にスマホアプリを活用。操作が難しい人もいる。

⇒ **スマホ教室**をする必要があるね



- ・生津校区見守り隊 情報交換会を年2回開催し、見守り活動での気づきや課題を共有している。
- ・見守り活動の成果として、保護者の方から、「最近、子どもの事故が起きていない」「不審者情報のメールが届かない」という嬉しい言葉があった。次へつながるアイデアとして、スマホ教室をやったらどうかという意見が出た。

スマホ教室(令和5年12月2日)

つながるための**アイデア②**「中学生などの若者の参画を得て開催する『高齢者のスマホ教室』」の試行を兼ねて実施。

生津小学校から下校時間などの活動に必要な情報を受け取るため、「学校—家庭—地域をつなぐ連絡システム『すぐーる』」を使えるように、スマホ教室を開催。



自作のスライドで説明するのは、馬場西自治会長の鶴飼さん！

- ・初めての試みで、スマホ教室を12月2日に開催。生津小学校から下校時間などの活動に必要な情報を受けとるため、「学校—家庭—地域をつなぐ連絡システム『すぐーる』」を使えるように教えあった。

生津校区見守り隊 情報交換会

(令和6年2月15日)

- ▶ 定期的に開催（年2回）
- ▶ 見守り活動での気づきや課題などを共有する。

【意見より】

- ・長年やっているとお互い顔が分かるようになり、ハイタッチするなど親しくなれる。子どもは毎日表情が違い楽しい
- ・はじめは畑をしながらベストを着ていたのだが、最近は散歩の時もベストを着ている。ベストを着ていると子どもからあいさつしてくれる。ベストを着ていると話しかけやすい人という印象になる
- ・見守り隊のチラシをつくり子ども会で配布してはどうか
- ・「ながら見守り」子どもだけでなくお年寄りの方を対象としてもやる必要があると思った

- ・令和6年2月15日には初めて外部講師を呼び交換会を実施。

m o t t o ひょうご 事務局長 栗木剛氏を招致し、見守り隊の現在の活動を認めながら、継続する大切さを再認識することができ、講話後のグループワークでも皆さんの前向きな意見を多く聞くことができた。

生津校区見守り隊 情報交換会

(令和7年6月28日)

- ▶ 福祉協力員研修会・3者交流会と合同開催

【意見より】

- ・最初は断ったが、仕事をしていないのでやるようになった。毎日のルーティンで活動を継続していくことが、自分自身の生活も規則的に保てるようになり良かった。
- ・登下校の時に転んだ女の子の処置を以前したが、その子が他の子を助けてあげていたのが嬉しかった。子どもの成長が見れる

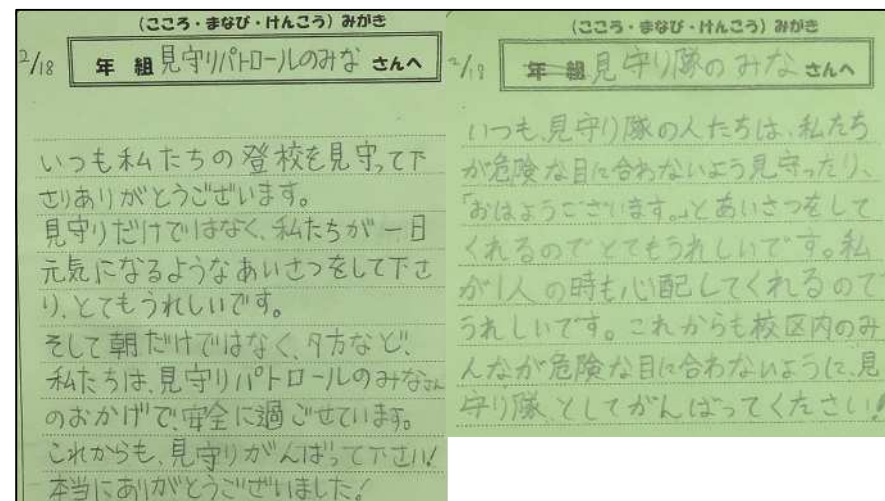
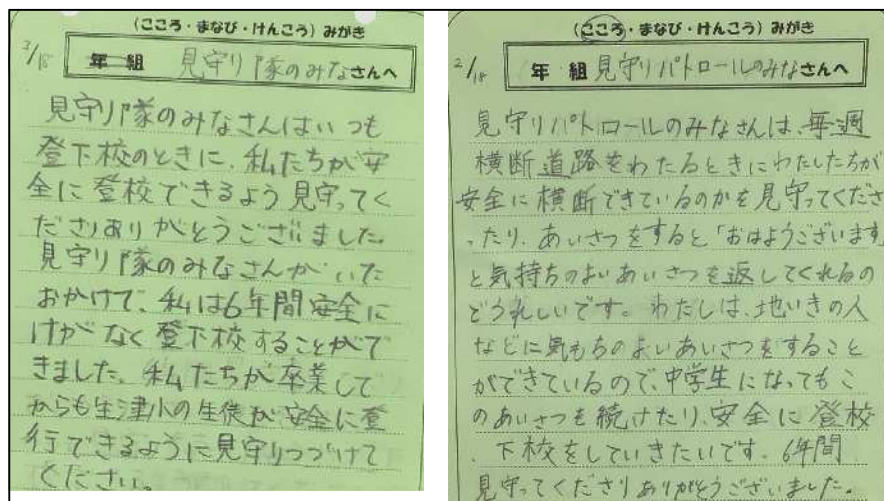


- ・今年6月は福祉協力員研修会・3者交流会とはじめて合同開催。

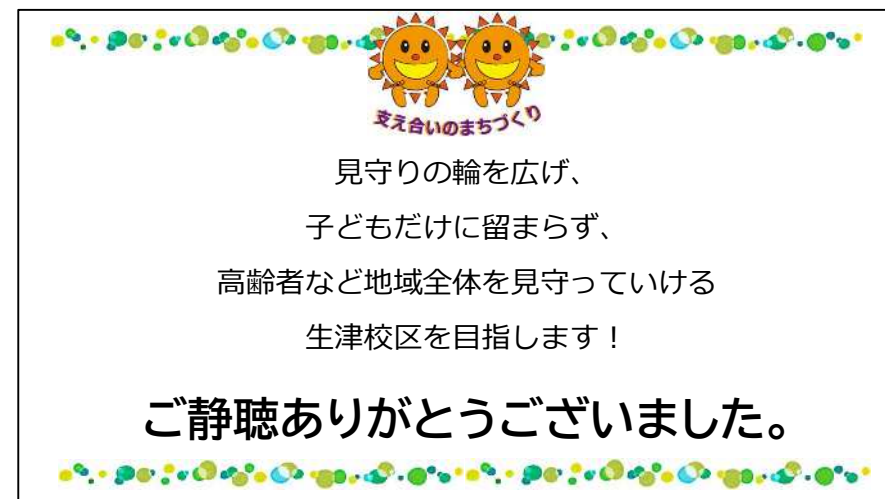
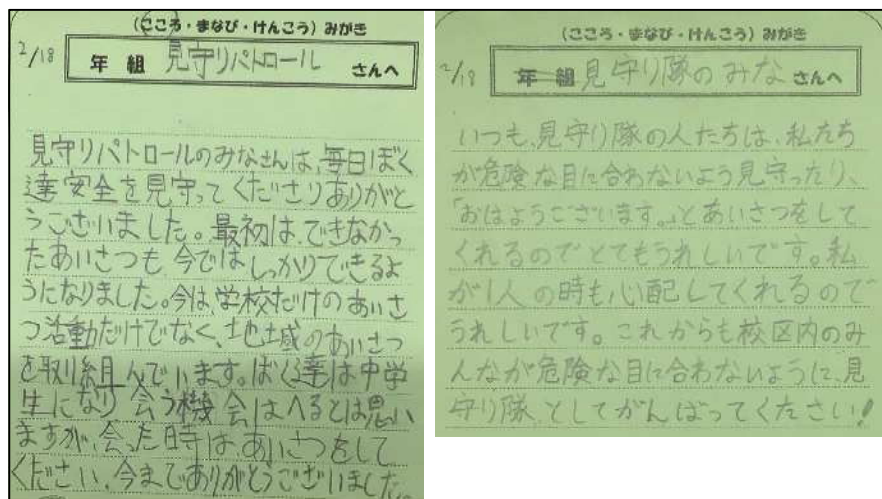
この研修会は、福祉協力員、自治会長、民生委員・児童委員で集まり、地域の見守りネットワーク作りを目的としており、地域の人が見守りについて話し合う良い機会になった。

また、見守り隊で活動の振返りをし、子どもだけでなく自分自身のためにもなっている声が多数あった。

- ・今後も情報交換会を年2回開催する予定のため、見守り活動での気づきや課題などを共有し、解決策を検討したり、活動者同士がつながる場としていく。



・ 小学校の生徒から送られた見守り隊へのお礼の手紙



- ・これからは、見守りの輪を広げ、子どもだけに留まらず、高齢者など地域全体を見守っていける生津校区を目指していく。